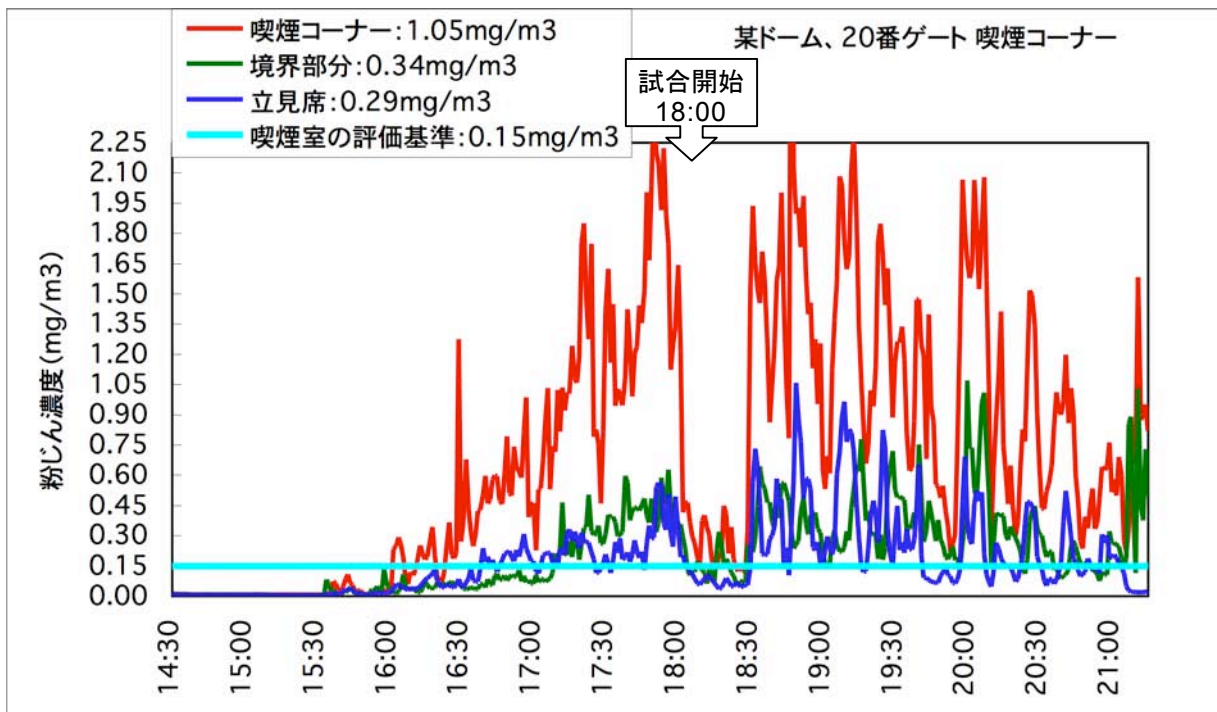
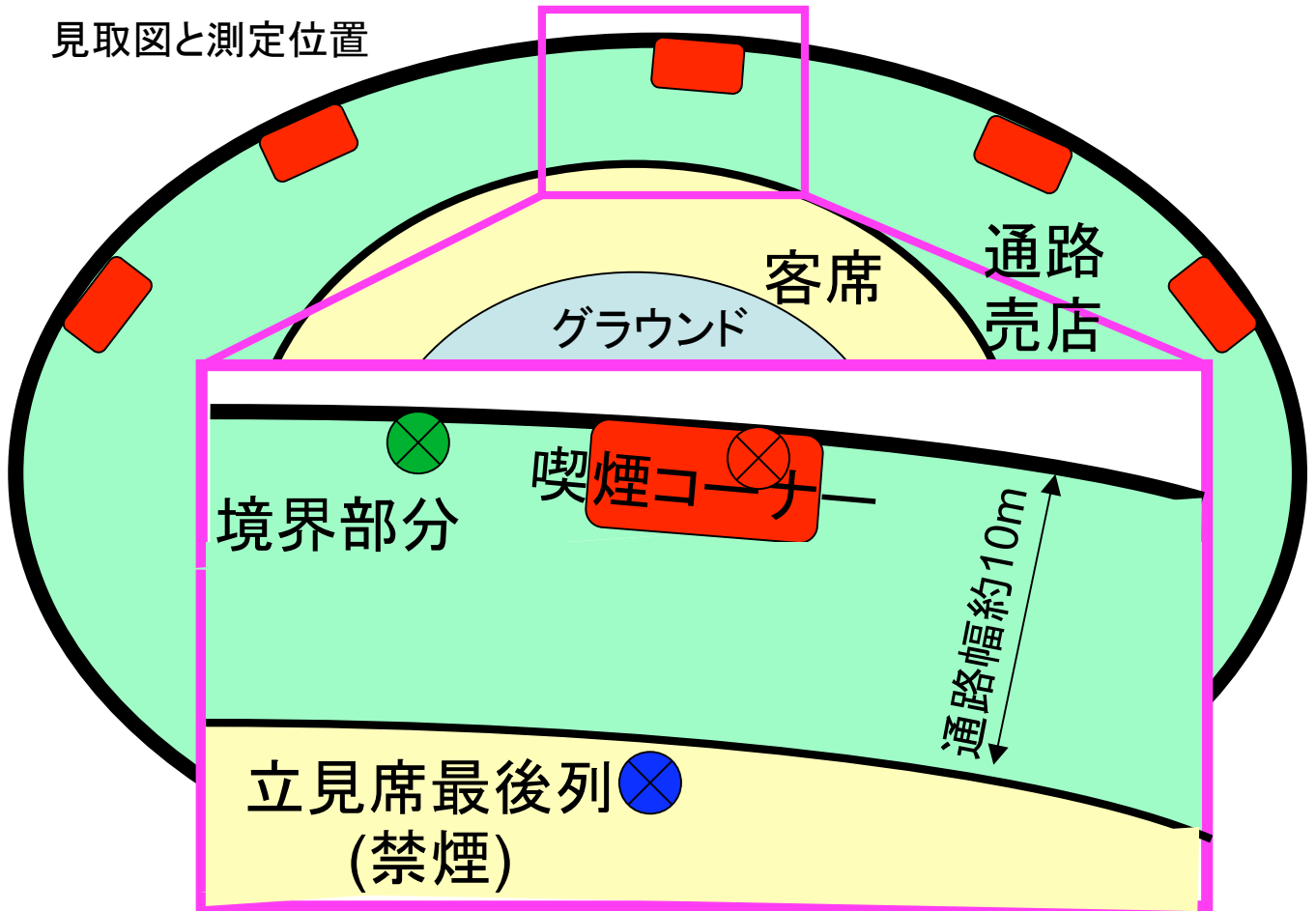


1) 大型遊戯施設(ドーム球場)における受動喫煙対策:
 某ドーム: 喫煙コーナーのみ、排気の強化なし

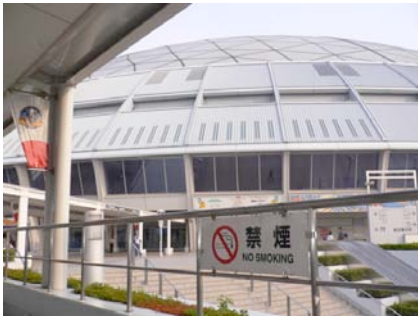
見取図と測定位置



結果: 喫煙者の数が増えるとともに粉じん濃度が上昇し、約70名が同時に喫煙する時間の喫煙コーナーの最大濃度は喫煙室の評価基準の15倍に達することが認められた。喫煙コーナーを隔離する壁も排気もないため、約5m離れた境界部分や約10m離れた立見席にも環境タバコ煙が拡散し、禁煙である立見席の最後列でも喫煙室の基準の5倍に達することが認められた。喫煙コーナーの環境タバコ煙が周囲の通路に拡散する状況は他の喫煙コーナーでも同じであった。

1) 大型遊戯施設(ドーム球場)における受動喫煙対策:
Nドーム: 喫煙コーナー、排気の強化あり

資料: 1-2



ドームへ向かう通路は禁煙



床の白線内が喫煙コーナー



屋外側

各喫煙コーナーには3台の排気装置



各喫煙コーナーには3台の排気装置があるが、壁による仕切りは無い

禁煙区域の測定

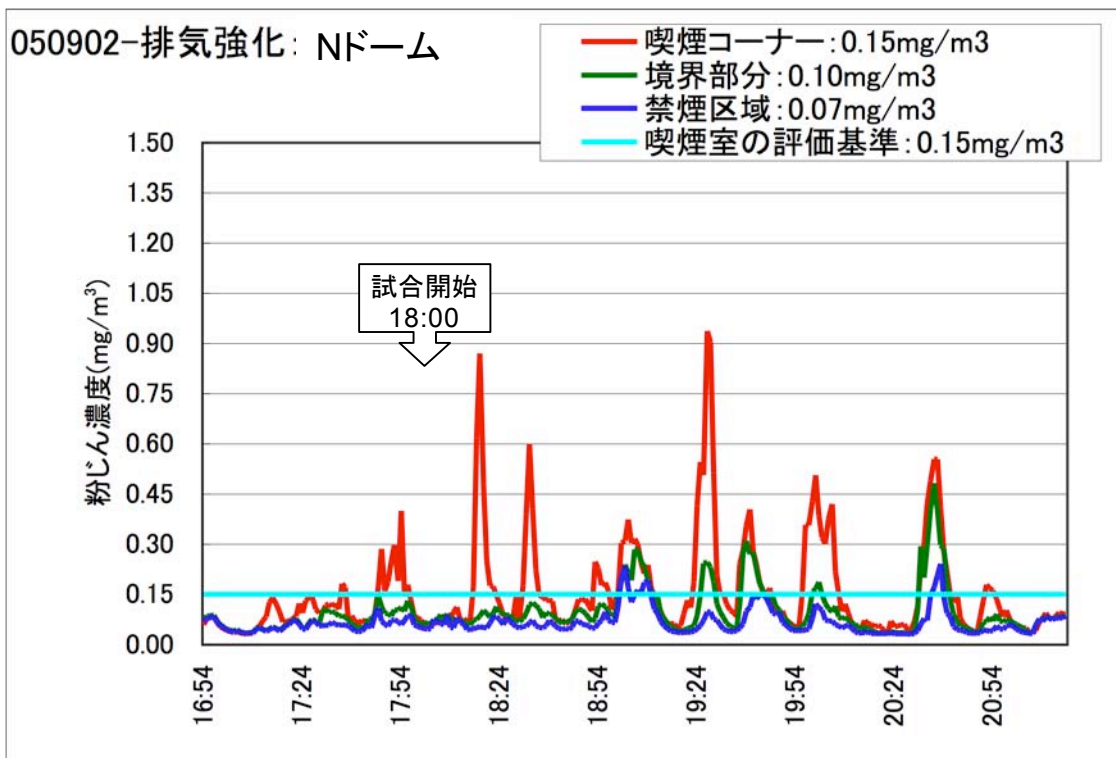


禁煙区域、境界部分の測定

境界部分の測定 喫煙コーナーの測定



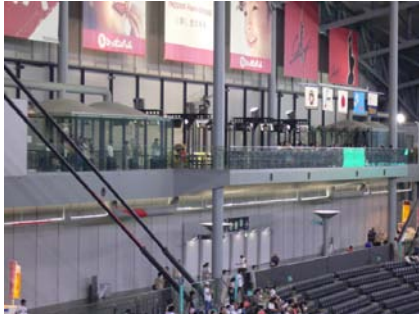
喫煙コーナーと3点同時測定



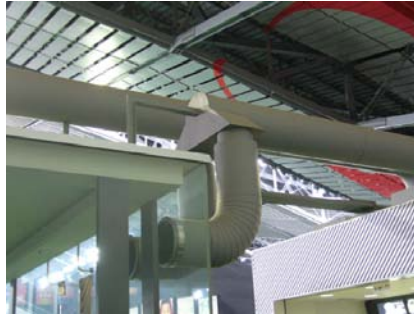
結果: 喫煙コーナー (床の白線の内側) には大型 (羽根径; 推定30cm) の換気扇が3台ずつ設置されていた。喫煙コーナーの平均濃度は0.15mg/m³であった。ただし、壁で仕切られていないため、5m離れた境界部分や15m離れた禁煙区域にも環境タバコ煙が拡散しており、受動喫煙は防止できていないことが認められた。

1) 大型遊戯施設(ドーム球場)における受動喫煙対策: 札幌ドーム: 喫煙室、排気装置あり

資料: 1-3



3階フロアの喫煙室、
1塁側と3塁側に2個。



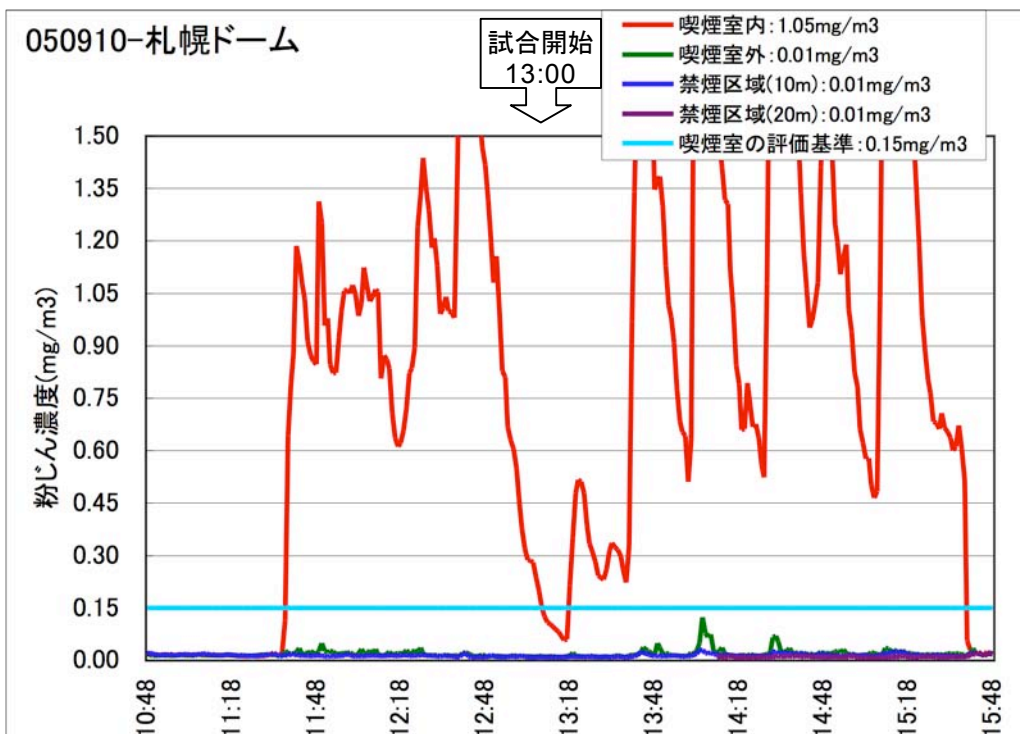
排気口が2カ所。
合計排気風量12.6m³/min。
屋外へ排気



出入口の空気取入口(ガラリ)、
ドアが閉まった状態であれば、
1.0m/sの気流があり煙の漏れはない



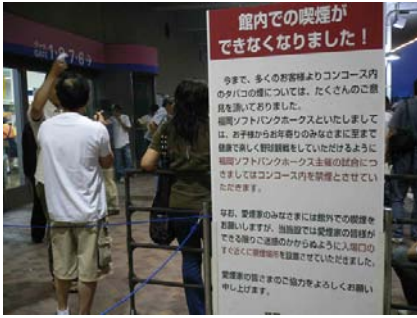
結果: 粉じん濃度の測定においても、ドアが閉まっている限り環境タバコ煙の漏れはないことが認められた。しかし、ドアが2カ所にあるため、片方のドアが開いている状態で反対側のドアを開けると煙を押し出すことになるため、込み合う時間帯で頻繁にドアの開閉がおこなわれる場合には、緑の円で示すドアのすぐ外の測定点ではタバコ煙の漏れを認めた。



空間が大きいので、喫煙室から10m、20m離れた測定点では、粉じん濃度の上昇はほとんど認められなかった。ただし、喫煙室の中には、時間あたりに喫煙される本数に比較して排気風量が小さいため、最高濃度は1.5mg/m³を超え、平均濃度でも1.05mg/m³の劣悪な空気環境であった。

1) 大型遊戯施設(ドーム球場)における受動喫煙対策:
福岡ヤフージャパンドーム: 全館禁煙、屋外喫煙所

資料: 1-4



全館禁煙となったことのお知らせ



出入口の外に喫煙所



ドアの内側に粉じん計をセット。して逆流の程度を評価。



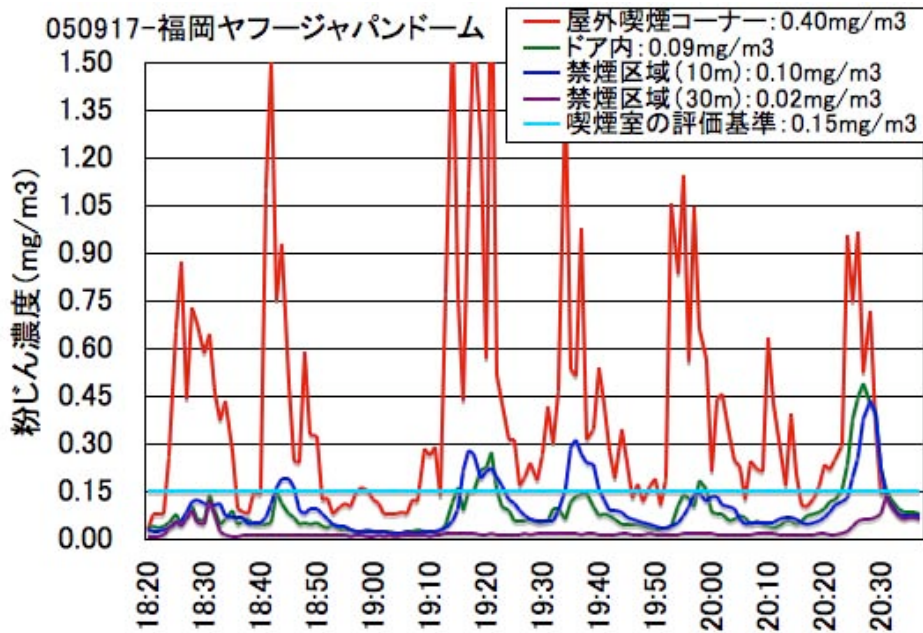
屋外喫煙所に粉じん計をセット



最大120名が同時に喫煙



出入口から30mほど離れた測定点



結果: 屋内は禁煙であるが、出入口の外が喫煙コーナーとなっている。そのため、風向きが屋外から屋内側へ向かう場合には、屋外のタバコ煙が屋内に逆流することが認められた。風向きが変わる(18:50~19:10)と逆流は発生しなかった。喫煙コーナーへの出入口から30mほど離れた測定点では、ほとんど受動喫煙は発生していないが、風向きによっては、多少の汚染が発生していることが認められた。エアコンにより客席の方が陽圧となっているため、客席における受動喫煙は全く発生していなかった。



観客席における受動喫煙は認められなかった